

かんがえる人

原田宗典



光文社

がえる人

原田宗典



光文社

お願い――

この本をお読みになって、どんな感想をもたれたでしょうか。「読後の感想」を左記あてにお送りいただけましたら、ありがたく存じます。

なお、このほかに、「光文社の本」では、どんな本を読まれたでしょうか。どの本にも、一字でも誤植がないようにつとめておりますが、もしお気づきの点がありましたら、お教えください。ご職業、ご年齢などもお書きそえくだされば、幸せに存じます。

東京都文京区音羽二―二―二三

(〒112-11)

光文社 文芸編集部

エッセイ かんがえる人

一九九四年九月三〇日 初版第一刷発行
一九九四年一〇月三〇日 第二刷発行

著者 原田 宗典

発行者 森元 順司

発行者 株式会社 光文社

東京都文京区音羽二―二―二三
電話 東京(〇三)三九四二―三二四(代)
振替 〇〇一六〇一三一―一五三四七

印刷所 大日本印刷

製本所 大日本印刷

定価はカバーに表示してあります。

落丁本・乱丁本は本社でお取替えいたします。 © Munenori Harada 1994
ISBN4-334-97091-5 Printed in Japan

本書の全部または一部を無断で複写複製(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(03-3401-2382)にご連絡ください。

かん
が
え
る
人

かんがえる人

目次

右脳編

パンツのインパクト.....	11
おばさんの強さ.....	16
焚火の不思議なテンション.....	21
幸運な酔っぱらいの謎.....	27
Tバックの謎.....	32
子猫の謎.....	37
情眠の悦楽の謎.....	43
煙草の謎.....	48
あのタマの謎.....	53

何故だ台湾パワー……………	59
ホラー映画の謎……………	64
ワケ分からん夢……………	69
そんなところで何故頑張る？……………	75
運転技術の謎……………	81
何故生えているのか？……………	86
大阪々やる気の謎……………	92
不思議なものを見る……………	97
体力低下の謎……………	102
美味しいとは何か？……………	107

左 脳 編

高級ホテルの謎……………125

人だかりの謎……………130

お食事の謎……………135

青年の突飛さの謎……………140

イバる運転手の謎……………145

人の犯すミスの謎……………150

コンドームの謎……………155

文房具屋の謎……………161

没滞と工事の謎……………166

カッチョよさの謎……………171

考える、ということの謎……………176

納得いかん電子レンジ……………181

若年ロマンチストの謎……………186

○インド摩訶不思議……………192

恥ずかしさって何だ？……………197

美術展の謎……………202

悪趣味って何だ？……………207

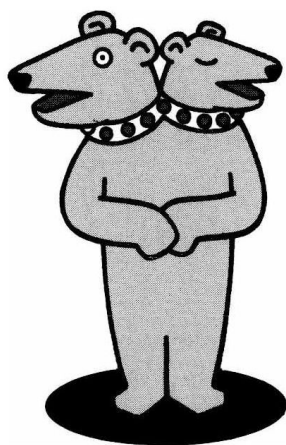
何故野球なのか？……………212

イラスト：土谷尚武
装幀：木庭實信

右

腦

編



パンツのインパクト

ここだけの話だが、ぼくはミニスカートの弱い。

駅の階段なんかを昇っている際、ふと見上げた四、五段先をミニスカートの女性が昇っていたりすると、

「おおおッ！」

と拳こぶしを固めてしまう。力を入れすぎて人差し指を突き指するくらい固めてしまう。

爪が掌の肉に食い込んで血が流れるほど固めてしまう。しかもその女性が大胆な性格で、下方から見上げる視線などは意に介さない様子であったりすると、

「生きててよかった」

としみじみ思ったりする。

そのくせあからさまな視線を向けるのは周囲に対して恥ずかしいので、ちょっとポーズを作って、

「俺、本当は見たくないんだけど、階段を昇る成り行き上、どうしても視界に入っちゃうのよねこの場合」

というような複雑な演技をする。本当は心底嬉しくてニヤニヤしたいのだが、それをグッと押し殺して、わざと陰しい顔をし、

「あんなスカートで無防備に階段を昇るなんて、実にけしからんッ」

と考えているのだぞと、周囲にアピールしようとする。こういう時、自分の気持ちに正直になって、ぐぐつと体勢を低くし、下から嘗め上げるような視線でミニスカートの女性をとらえながら、

「ヤッホーお嬢さん、白いパンツが丸見えでっせえ！」

などと声高に叫ぶことができれば、どんなにか幸福であらうかとも思う。しかし自己意識やコンセンサスが邪魔をして、なかなかそういう正直な行動がとれない。だから本当は嬉しいのにその気持を押し殺しつつ、ややうつむきがちにミニスカートの女性の後ろから階段を昇るのが常なのである。

ミニスカートの女性に対して、こういう気持を抱くのはぼくだけなのだろうか。ちょっと心配だったので、周囲の男性にアンケートをとって見たところ、ほぼ百パーセントの賛同を得た。みんな考えていることは同じなのである。さらにスカートの丈についてアンケートをとってみると、

「やはりスカートは長いより短い方がよろしい」

という意見が大勢をしめた。そしてさらにスカートの中身であるパンツについてアンケートをとってみると、

「やはりパンツは見えないより見えた方がうれしい」

という意見がほとんどであった。

これが今回の考えるべき謎である。

どうして男性は、女性のパンツに対してこんなにもコダワリを持つのか？ 冷静に考えてみれば、女性のパンツなんてただの布きれではないか。そう思うのだが、いざ突風に煽られてスカートがめくれ、パンツがちらりなんて場面に遭遇すると、冷静に考えることはできない。

「突風」

「スカートめくれる」

「パンツちらり」

「イヤーンという黄色い声」

「うれしい」

と、こういう図式がたちまち頭の中で構築されてしまう。パンツくらいでいい大人が……と、女性の方々は思うであろう。男性にしても、自分自身のこの過剰な反応ぶりにはいささか手を焼いているのである。

「日頃は冷静なこの俺が、何故女性のパンツに関してだけはこうなのだ。何故何故——」
と自問しているのである。

パンツが見えたからといって月給が上がるわけではないし、パンツが見えたからといって課長に昇格するわけでもないし、パンツが見えたからといってその女性と怪しい関係になれるわけでもないし、パンツが見えたからといって東京の土地が値下がりするわけでもない。そんなことは自明の理である。にもかかわらず、男性は女性のパンツがちらりとでも見えると、

「生きててよかった」